

「週休7日幸せか」「政権おとしめる」「首相のお友達」…

議事録からの発言削除次々 検証材料 後世に残らず

国会での審議で質問、答弁などにかかわらず、議事録からの発言削除が依然、相次いでいる。仮に発言に誤りがあったとしても、それは後で訂正発言と併せて記録すればよい、「その事実の発言」だけが時代の空気を反映できる。安易に削除できる議事録では、歴史の検証材料たり得ないのではないか。(白名正和)

言葉の軽さの「因」に

最近削除された一例は、自民党の渡辺美樹氏の発言がある。十三日の参院予算委員会の過労死防止などについての公聴会で、出席した過労死遺族に対し「お話を聞いていると、週休七日が人間にとって幸せなのかと聞かせる」と話した。遺族側の抗議で渡辺氏は謝罪し、与野党は二十日の同委員会で問題の発言を削除する事で一致した。同時に、自民の和田政宗氏による「安倍政権をおとしめる」発言も削除された。議事録からの削除は、国会法や衆参両院規則の「秩序を乱す」と「不適切な発言」を削除する規定に基づいている。ただ、衆院規則二〇三条は議事録の訂正について「演説の趣旨を変更するとはできない」と定め、安易な変更を抑制的な姿勢を示している。両院とも発言者や他の議員らによる申し出を理事会にはかり、合意されれば議事録から消すという手順だ。削除には二種類ある。一つは問題となった発言部分を枠線に置き換えるやり方だ。議事録をひもどけば、発言の途中が「」に変わ



っているのが、少なくとも削除の場所は把握できる。もう一つは、枠線に置き換えず、発言を消してしまふ方法だ。この場合、注釈もなく、議事録を見ただけでは削除があったかどうか、見当もつかない。いずれにせよ、例外的な措置であるはずだが、昨今、続いている印象がある。二月には衆院本会議で福田昭

和田政宗(中央右)は、自民党の参院予算委員で質問する。発言の一部は議事録から削除された。19日、国会で

夫氏(無所属の会)が「安倍首相のお友達が理事

長を務めていた森友学園」と発言し、削除された。昨年十一月には、日本維新の会の足立康史氏が衆院文部科学委員で、立憲民主党の福山哲郎氏を「犯罪者」と名指しし、議事録から消された。十六年二月には、自民党の丸山和也氏が参院憲法審査会で、当時のオバマ米大統領に関して「米国は黒人が大統領になつてい

る。奴隷ですよ」と発言し、削除されている。削除件数はいったいどれほどなのか。衆院事務局は「すぐに件数は出せないが、年数件程度」。参院事務局は「二三年以降に渡辺、和田両氏を除いて五件だが、これは枠線で訂正した数。消した方の数は分からない」との回答だった。

削除のほか、訂正もある。安倍首相が十六年五月に衆院予算委で「私は立法

府の長」と発言した。正しくは行政府の長だ。首相の見識が問われるが、議事録はすでに「行政府の長」と訂正されている。

労働問題を手掛ける渡辺輝人弁護士は「渡辺議員をはじめ、他の政治家の言葉も個人の考えだけであって、所属政党の姿勢も典型的に表している。いわば時代の象徴だ。それを消してしまつたら、後世が当時の政治家の考えや世相を確かめられなくなる」と批判する。「失言しても消せるという考えが、昨今の政治家が発する言葉の軽さにもつながっている面もある。元の発言は全て残り、注釈で『この部分は削除』などとしておくべきではないか」

NPO法人「情報公開クリアリングハウス」の三木由希子理事長も「政治家の責任を時間を超えて評価するためには記録が不可欠。議事録からの削除は結果的に発言をした議員自身を守ることにつながる。著しく誰かを傷つける発言以外は残すべきだ」と強調した。

削除のほかに、訂正もある。安倍首相が十六年五月に衆院予算委で「私は立法